

株式会社三菱ケミカルホールディングス

IR NAVI

アイアール ナビ

株主の皆様へ

vol.16

第6期中間期のご報告

(平成22年4月1日～平成22年9月30日)



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当上半期（平成22年4月1日から9月30日まで）における日本経済は、急速な円高の進行、海外景気の下振れ等の懸念があるものの、個人消費や設備投資に持ち直しの動きが見られ、また、アジア向けを中心に輸出が増加するなど、回復基調で推移しました。

当社グループの当上半期の連結業績につきましては、その詳細は次頁以下に記載の通りですが、本年3月に三菱レイヨンを実子会社としたことに加え、機能商品分野及び素材分野では需要が回復し、また、ヘルスケア分野は堅調に推移したことにより、売上高は1兆5,646億円となりました。利益面では、営業利益は1,113億円、経常利益は1,063億円、当期純利益は439億円となりました。このような状況等を踏まえ、当期の中間配当金につきましては、1円増配の1株につき5円とさせていただきます。

本年10月、三菱レイヨンが株式交換により当社の完全子会社となり、当社グループは、これによりシナジー効果の早期実現と事業競争力のさらなる強化を図ってまいります。また、当社グループは、来年度からの次期中期経営計画を12月初旬に公表する予定ですが、この次期中期経営計画においては、グループ理念「Good Chemistry for Tomorrow 人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。」のもと、「KAITEKI」の実現、すなわち、人間にとっての心地よさに加え、社会にとっての快適、地球にとっての快適の実現に向けた中長期的な方針や具体的な諸施策を定めることとしており、グループを挙げてこれらに取り組んでまいります。

当社グループは、今後とも企業価値・株主価値の一層の向上に努めてまいりますので、何卒倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

取締役社長

小林喜光

IRNAVI

ファイナルナビとは、本冊子を株主の皆様とのコミュニケーションツールとして、当社グループに関する情報（IR情報）をよりわかりやすく株主の皆様へナビゲーティング（道案内）していきたいという意味を込めております。

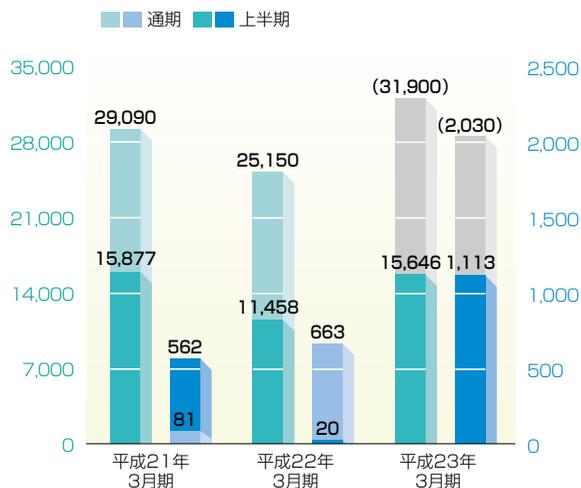
CONTENTS

株主の皆様へ	1	財務諸表の概要	7
連結FINANCIAL HIGHLIGHTS	2	特集 電池材料事業の海外展開	9
セグメント別の概況（連結）	3	会社概要・株式の状況	10
CSR情報	6		

連結 FINANCIAL HIGHLIGHTS

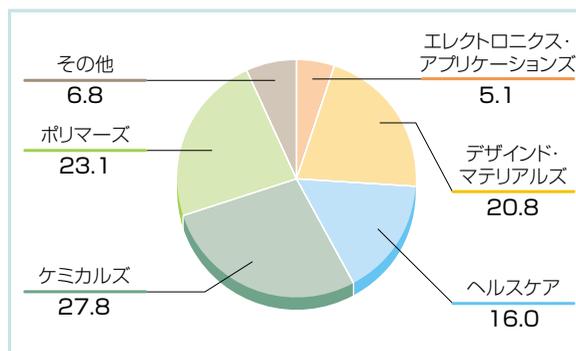
売上高・営業利益

(単位:億円)



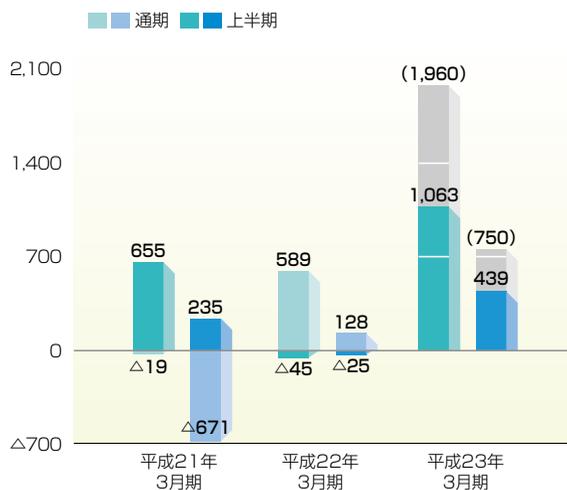
セグメント別売上高の構成比

(単位:%)

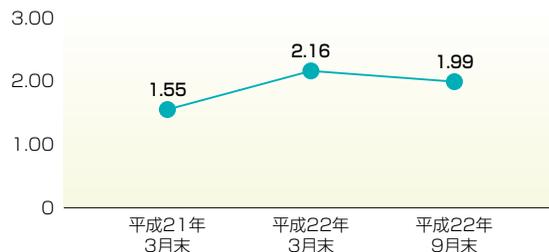


経常利益・当期純利益

(単位:億円)



D/E (デット・エクイティ) レシオ



※D/Eレシオとは、自己資本に対する有利子負債の比率で、財務体質の健全性を表す指標の一つです。比率が小さいほど健全性が高いことを示します。

配当の状況

(単位:円)

	1株当たり配当金		
	中間配当金	期末配当金	年間
平成22年3月期	4	4	8
平成23年3月期	5	(5)	(10)

()内の数値は、平成22年11月2日の第2四半期決算発表時点での予想数値であります。

セグメント別の概況(連結)

機能商品

エレクトロニクス・アプリケーションズ

記録材料、電子関連製品、情報機材

記録材料は、DVDの販売数量の減少及び販売価格の低下があったものの、ポータブルハードディスク、フラッシュメモリー製品等の販売数量の増加により、前年同期並みの売上げを確保しました。電子関連製品は、ディスプレイ材料の販売数量の増加等により、また、情報機材は、OPC及びトナーの販売数量の増加等により、それぞれ売上げは増加しました。

以上の結果、売上高は805億円となり、営業利益は32億円となりました。



主な実施施策

- 三菱化学メディアが、シンガポールにおいてブルーレイディスク製造設備の増設工事を完了し、営業運転を開始(本年4月)

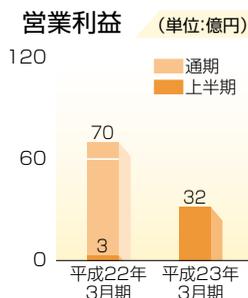
- 三菱化学メディアが、本年7月に全製品のVerbatimブランドへの統一を発表し、また本年9月にVerbatimブランドを使って、欧州でLED電球の販売を開始

デザイン・マテリアルズ

食品機能材、電池材料、精密化学品、樹脂加工品、複合材、無機化学品、化学繊維

食品機能材は、順調に推移しました。電池材料は、ノート型パソコン向けの販売数量の増加により、売上げは増加しました。精密化学品は、販売数量の増加により、売上げは増加しました。樹脂加工品は、昨年9月に日本合成化学工業及びクオドラント社を連結子会社としたこと並びにポリエステルフィルムの販売数量の大幅な増加により、また、複合材のうち炭素繊維等の産業資材は、本年3月に三菱レイオンを連結子会社としたこと及び需要の回復により、それぞれ売上げは大幅に増加しました。無機化学品は、販売数量の増加により、売上げは大幅に増加しました。また、三菱レイオンの連結子会社化により、化学繊維の売上げを計上しました。

以上の結果、売上高は3,268億円となり、営業利益は208億円となりました。





炭素繊維プレカーサー

主な実施施策

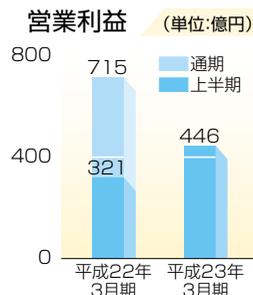
- 三菱レイヨンが、エスジーエル テクノロジーズ社（ドイツ）と炭素繊維プレカーサー（炭素繊維向けアクリル繊維）の製造・販売を目的とする合弁会社MRC-SGLプレカーサーを設立（本年4月）
- 三菱樹脂が、中国においてポリエステルフィルムの製造販売会社を設立することを決定（本年9月）
- 三菱化学が、リチウムイオン電池材料の海外展開を図るため、中国において負極材の製造販売会社を設立することを決定（本年9月）

ヘルスケア

ヘルスケア

医薬品、診断製品、臨床検査

医薬品は、本年4月の薬価改定の影響があったものの、抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤「レミケード」の販売数量が前年同期を大きく上回ったほか、脳保護薬「ラジカット」、選択的 β



1遮断剤「メインテート」、アレルギー性疾患治療剤「タリオン」などの販売が順調に推移しました。また、ワクチンやジェネリック医薬品も売上げは増加しました。診断製品及び臨床検査は、順調に推移しました。

以上の結果、売上高は2,518億円となり、営業利益は446億円となりました。



腔カンジダ再発治療薬「オキナゾール L100」

主な実施施策

- 田辺三菱製薬が、抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤「レミケード点滴静注用100」について、本年4月に強直性脊椎炎の、また、本年6月に潰瘍性大腸炎の、それぞれ効能・効果の追加承認を取得
- 田辺三菱製薬がノバルティス社（スイス）に導出した「FTY720」について、本年8月にロシア、また、本年9月にアメリカにおいて多発性硬化症治療薬として承認を取得
- 田辺三菱製薬が、OTC医薬品（第1類医薬品）／腔カンジダ再発治療薬「オキナゾール L100」の販売を開始（本年9月）

セグメント別の概況(連結)

● 素材

ケミカルズ

基礎石化製品、化成品、合成繊維原料、炭素製品

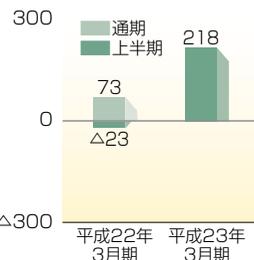
石油化学製品の基礎原料であるエチレンの生産量は、前年同期に比べ定期修理が小規模であったこと等により、56万4千トンと前年同期を21.2%上回りました。基礎石化製品、化成品、合成繊維原料は、三菱レイヨンを連結子会社としたことに加え、原料であるナフサの価格上昇に伴う製品価格の是正、需要の増加等により、売上げは大幅に増加しました。炭素製品のうちコークスは、販売数量は増加したものの、原料炭価格に連動した販売価格の下落により、前年同期並みの売上げとなりました。

以上の結果、売上高は4,352億円となり、営業利益は、原料と製品の価格差の改善、三菱レイヨンの連結子会社化等により、218億円となりました。

主な実施施策

- 三菱化学が、旭化成ケミカルズとともに、水島地区における基礎石油化学原料事業の集約・統合のための共同出資会社を設立することに基本合意(本年5月)

営業利益 (単位:億円)



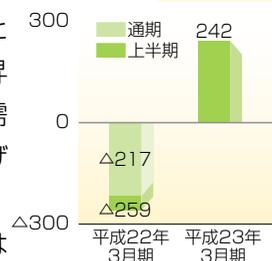
ポリマーズ

合成樹脂

合成樹脂は、三菱レイヨンを連結子会社としたことに加え、原燃料価格の上昇に伴う販売価格の是正、需要の増加等により、売上げは大幅に増加しました。

以上の結果、売上高は3,627億円となり、営業利益は、三菱レイヨンの連結子会社化に加え、原料と製品の価格差の改善、原燃料価格の上昇に伴う在庫評価損益の改善等により、242億円となりました。

営業利益 (単位:億円)



主な実施施策

- 三菱化学が、ロイヤル・ディーエスエム社(オランダ)グループとの間でナイロン事業とポリカーボネート事業の事業交換を完了(本年6月)
- 三菱化学が黒崎事業所に建設していた植物由来ポリカーボネート新規製造技術実証設備が完成し、稼動を開始(本年8月)

● その他

その他

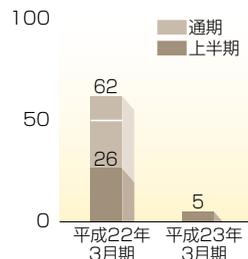
エンジニアリング、運送及び倉庫業他

エンジニアリング事業は、減販により売上は減少しました。物流事業は、外部受注の増加により、売上は増加しました。また、三菱レイヨンの連結子会社化等により、情報システムなど上記以外の事業

の売上げが大幅に増加しました。

以上の結果、売上高は1,074億円となり、営業利益は、エンジニアリング事業での減販等により、5億円となりました。

営業利益 (単位:億円)



CSR情報

※CSR:Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任) の略

当社グループの社会貢献活動

当社は、途上国における教育支援等の活動を行っており、また、グループ各社においても、下記の通り地球環境問題に取り組み、社会貢献活動へ参加する等の活動を行っております。当社グループは、これらの活動を通じて、地域社会との共存を図っています。

三菱化学

本年9月、ヒートアイランド対策の一環として、近隣企業や地域の保育園等の協力を得て、「日比谷通り打ち水大作戦2010」を実施



三菱樹脂

本年4月、NGO・NPO団体の募金活動を従業員に紹介し、従業員の募金にあわせて同額を会社も拠出するマッチングギフト制度を創設



田辺三菱製薬

本年6月、タナベインドネシア社が、ジャワ島西部のボゴール地区のチルワン川清掃キャンペーン活動に参加し、飲料水の提供と清掃及び植樹活動に協力



主催者からの感謝状



三菱レイヨン

本年1月、ダイヤモンド・アメリカ社が、住宅建築を通じて低所得者の自立を支援するNGOの活動に参加し、造園のお手伝いを実施



財務諸表の概要

連結貸借対照表

(単位:億円)

資産の部

科目	当上半期 (平成22年9月30日現在)	前期 (平成22年3月31日現在)
流動資産	13,658	13,691
現金・預金	1,031	1,191
受取手形・売掛金	5,817	5,956
たな卸資産	4,779	4,747
その他	2,055	1,824
貸倒引当金	△24	△27
固定資産	19,319	19,859
有形固定資産	11,272	11,670
投資有価証券	3,660	3,885
のれん	1,659	1,716
その他	2,726	2,586
1 資産合計	32,978	33,550

1 資産合計

資産合計は、円高の進行に伴う海外連結子会社の資産の円貨換算額の減少、保有株式の時価下落に伴う投資有価証券の減少等により減少しています。

負債及び純資産の部

科目	当上半期 (平成22年9月30日現在)	前期 (平成22年3月31日現在)
流動負債	10,400	11,744
支払手形・買掛金	3,822	3,708
短期金融債務	4,076	5,220
その他	2,501	2,815
固定負債	11,906	11,477
長期金融債務	9,767	9,321
その他	2,138	2,156
2 負債合計	22,307	23,222
株主資本	7,349	6,938
資本金	500	500
資本剰余金	3,034	3,032
利益剰余金	4,192	3,793
自己株式	△377	△387
評価・換算差額等	△402	△202
新株予約権	7	6
少数株主持分	3,718	3,586
3 純資産合計	10,671	10,328
負債及び純資産合計	32,978	33,550

2 負債合計

負債合計は、短期金融債務が減少したことにより減少しています。

3 純資産合計

純資産合計は、主に四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加により増加しています。

連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当上半期	前上半期
	(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
売上高	15,646	11,458
売上原価	11,787	9,053
販売費・一般管理費	2,745	2,384
営業利益	1,113	20
営業外収益	166	114
営業外費用	216	180
経常損益	1,063	△45
4 特別利益	35	265
特別損失	160	241
税金等調整前四半期純損益	938	△20
法人税、住民税及び事業税	226	144
法人税等調整額	52	△192
少数株主利益	219	53
四半期純損益	439	△25

4 特別利益

特別利益は、前期に大陽日酸の持分法適用関連会社化に伴い計上していた、負ののれん発生益がなくなったこと等により減少しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当上半期	前上半期
	(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	(自平成21年4月1日 至平成21年9月30日)
税金等調整前四半期純利益	938	△20
減価償却費	717	561
たな卸資産	△56	694
営業債権債務他	△159	△1,034
5 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,440	200
有形・無形固定資産取得	△531	△567
有価証券・投資有価証券取得	△687	△582
その他	512	224
投資活動によるキャッシュ・フロー	△707	△925
有利子負債	△520	△215
配当金他	△103	△106
財務活動によるキャッシュ・フロー	△623	△322
現金・現金同等物に係る換算差額	△71	12
現金・現金同等物の増減	38	△1,033
現金・現金同等物の期首残高	1,125	2,264
新規連結等に伴う現金・現金同等物の増減	7	10
現金・現金同等物の四半期末残高	1,172	1,241

5 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に税金等調整前四半期純利益の増加等により収入が増加しています。

特集 電池材料事業の海外展開

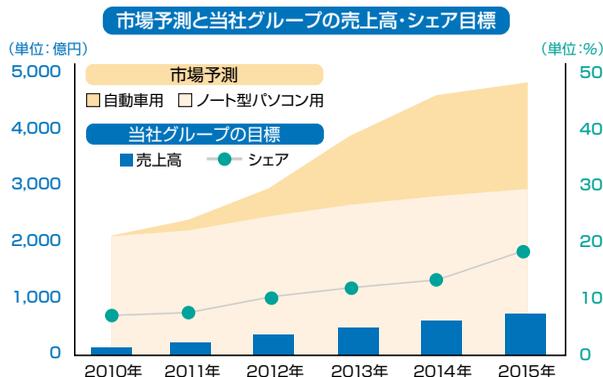
三菱化学は、自動車向けを中心に今後世界的に需要の拡大が見込まれるリチウムイオン電池の材料である負極材の製造販売を行う子会社を中国に、また、電解液の製造販売を行う子会社をイギリスとアメリカに、それぞれ設立することといたしました。

イギリスとアメリカにおける子会社は、それぞれ三菱レイヨンの子会社であるルーサイト社グループの工場内にて操業を行う予定であり、当社グループ会社間の協奏の効果が実現したプロジェクトの一つです。

当社グループは、リチウムイオン電池の材料を次世代の収益の柱の一つと位置付け、自動車向け主要4材料（電解液、負極材、正極材、セパレータ）の早期事業化と生産能力の拡大を図っております。2015年度までの主要4材料の投資予定額を300億円とし、また、売上高を現在の170億円から2015年度には800億円

にすることを目標としております。

当社グループは、リチウムイオン電池の主要4材料のすべてを手がける唯一のグループとして、今後も市場のニーズにあった電池材料の開発における強みを生かしながら、積極的な事業展開を図っていきます。



中国における 負極材製造販売会社の概要

所在地: 山東省青島市平度市
 資本金: 92.3百万人民币 (約12億円)
 (三菱化学100%出資)
 製造能力: 4,000トン/年
 設備投資額: 約20億円
 営業運転開始: 2012年 春 (予定)



ルーサイト社イギリス工場

イギリスにおける 電解液製造販売会社の概要

所在地: ストックトンオンティーズ市ピリンガム
 資本金: 8.3百万英ポンド (約11億円)
 (三菱化学100%出資)
 製造能力: 10,000トン/年
 設備投資額: 約25億円
 営業運転開始: 2011年 秋 (予定)



ルーサイト社アメリカ工場

アメリカにおける 電解液製造販売会社の概要

所在地: テネシー州メンフィス市
 資本金: 13.1百万米ドル (約11億円)
 (三菱化学100%出資)
 製造能力: 10,000トン/年
 設備投資額: 約25億円
 営業運転開始: 2012年 夏 (予定)

会社概要

商号 株式会社三菱ケミカルホールディングス
 (英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)

本店所在地 〒108-0014
 東京都港区芝四丁目14番1号
 (三菱ケミカルホールディングスビル)
 電話 03-6414-4800

資本金 500億円

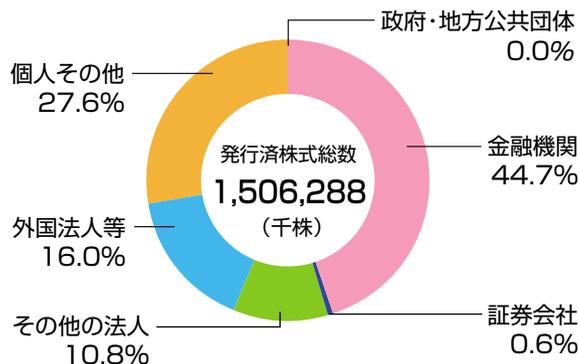
株式の状況

会社が発行する株式の総数 …………… 6,000,000千株
 発行済株式総数 …………… 1,506,288千株
 株主総数 …………… 167,141名
 大株主

株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	92,541	6.1
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	74,950	4.9
明治安田生命保険相互会社	64,388	4.2
武田薬品工業株式会社	51,730	3.4
日本生命保険相互会社	49,428	3.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	42,385	2.8
東京海上日動火災保険株式会社	40,205	2.6
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口9)	27,896	1.8
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口4)	24,133	1.6
三菱UFJ信託銀行株式会社	20,289	1.3

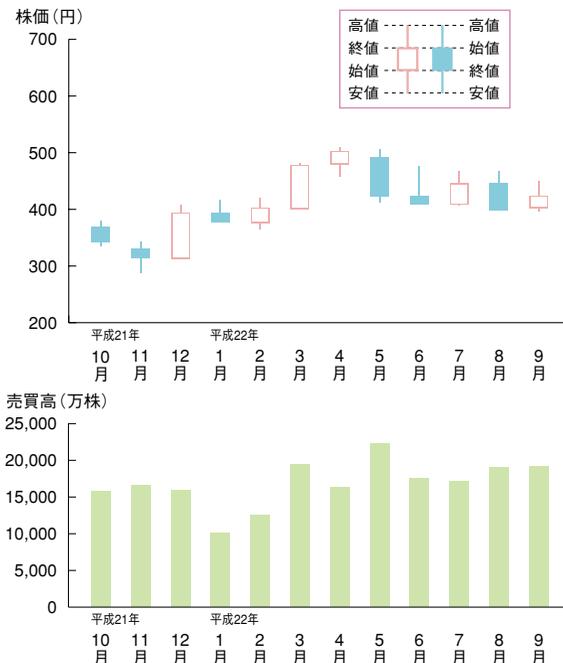
※上記のほか、当社が自己株式として129,612千株を保有しておりますが、当該株式については、会社法第308条第2項の規定により議決権を有しておりません。

所有者別株式分布の状況



※「個人その他」には、当社の自己株式としての保有分(8.6%)が含まれております。

株価及び株式売買高の推移(東京証券取引所)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

公告の方法 電子公告の方法により行います。
但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

◎ 公告掲載 URL
(<http://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html>)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
(〒100-8212)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

**郵便物送付先及び
電話お問合せ先** 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(〒137-8081)
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

0120-232-711 (通話料無料)

株券電子化に伴う株式手続変更のご案内

平成21年1月に実施された株券電子化に伴い、株式の取扱いに関する各種手続方法が変更されました。

電子化以前にお取引のある証券会社等を通じて証券保管振替機構(ほふり)に株式を預託されていた株主様は、電子化以降、各種手続の取次ぎは、お取引証券会社にて行うこととなりましたので、そちらにお問い合わせ下さい。

また、証券保管振替機構(ほふり)に株式を預託されていなかった株主様の株式は、当社が三菱UFJ信託銀行に開設した特別口座にて管理しておりますので、当社の特別口座管理機関である三菱UFJ信託銀行 証券代行部までお問い合わせ下さい。**特別口座に株式をお持ちの株主様が、株式を市場でお取引される場合、特別口座から証券会社の口座への振替えが必要となりますので、お早めに口座の振替えをお手続下さい。**

特別口座の口座管理機関及び連絡先

口座管理機関 **東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社**

連絡先 **〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL: 0120-232-711 (通話料無料)**

単元未満株式をお持ちの株主様へ

当社では単元未満株式(500株未満の株式)の買取のほか、買増を請求できる制度も導入しておりますので、単元未満株式をご所有の株主様は、ご利用をご検討下さい。